

# 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況（2007年5月～7月）その2

## 一 長野県南部の深部低周波微動発生時の傾斜記録

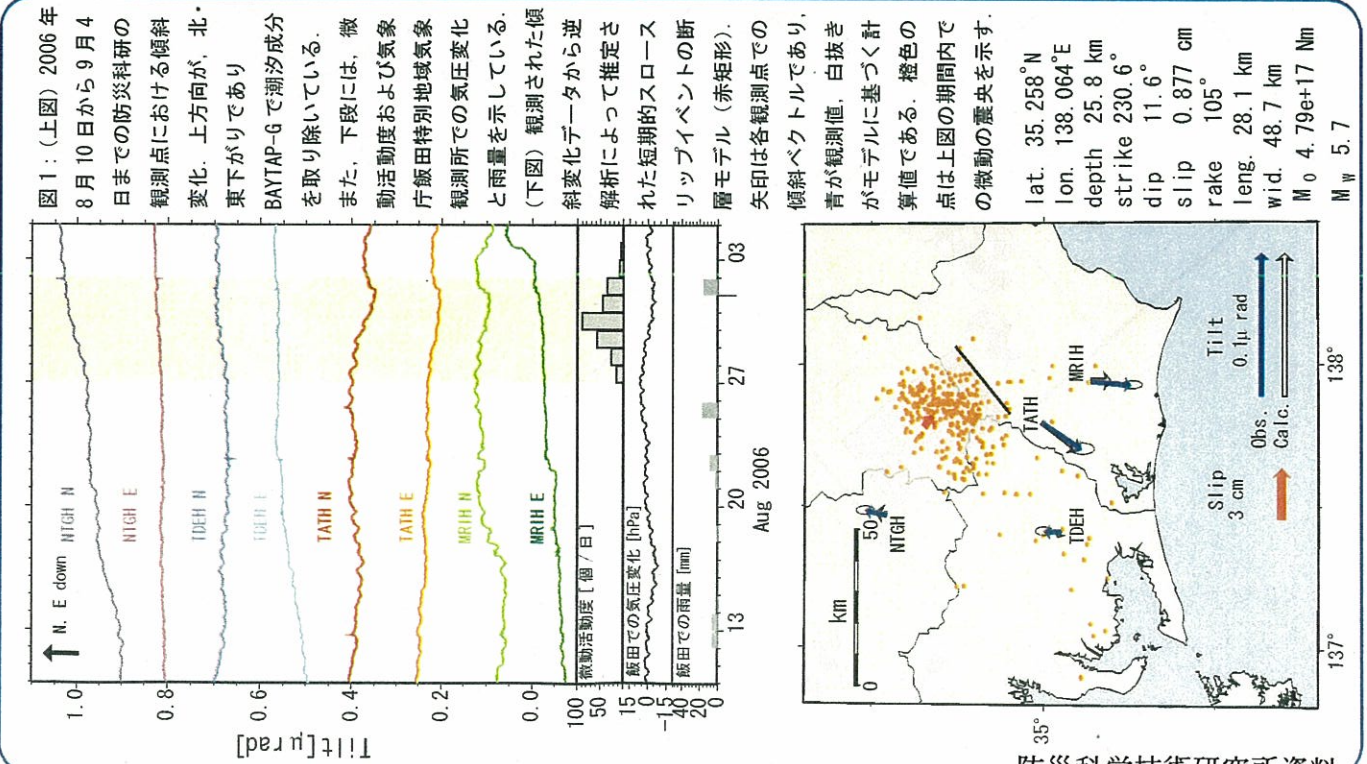


図1：(上図) 2006年8月10日から9月4日までの防災科研の観測点における傾斜変化。上方向が、北・東下がりであり

BAYTAP-Gで潮汐成分を取り除いている。また、下段には、微動活動度および気象庁飯田特別地域気象観測所での気圧変化と雨量を示している。

(下図) 観測された傾斜変化データから逆解析によって推定された短期的スロースリップイベントの断層モデル(赤矩形)。矢印は各観測点での傾斜ベクトルであり、青が観測値、白抜きがモデルに基づく計算値である。橙色の点は上図の期間内での微動の震央を示す。

lat. 35.258° N  
lon. 138.064° E  
depth 25.8 km  
strike 230.6°  
dip 11.6°  
slip 0.877 cm  
rake 105°  
leng. 28.1 km  
wid. 48.7 km  
M<sub>0</sub> 4.79e+17 Nm  
M<sub>w</sub> 5.7

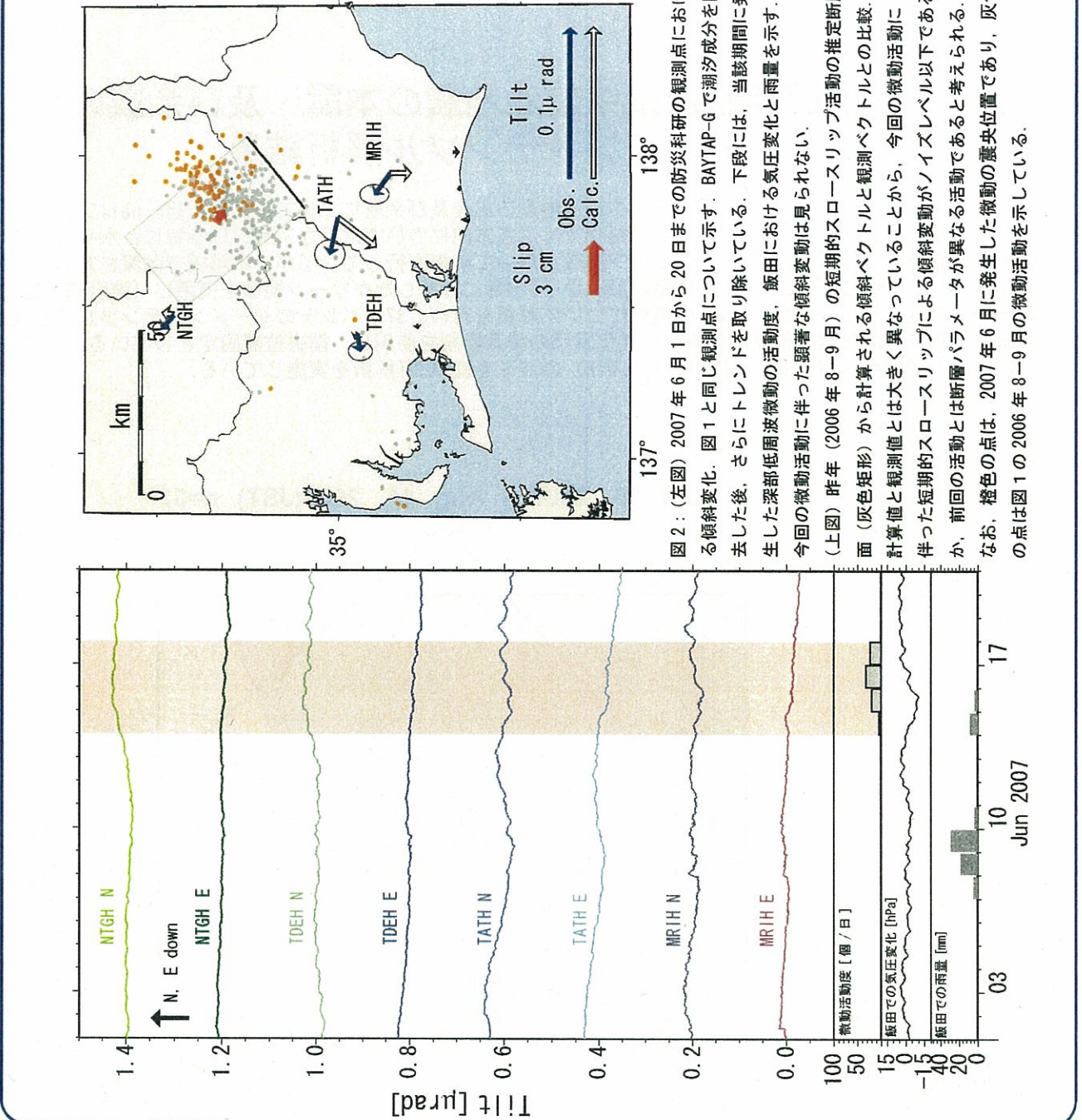


図2：(左図) 2007年6月1日から20日までの防災科研の観測点における傾斜変化。図1と同じ観測点について示す。BAYTAP-Gで潮汐成分を除去した後、さらにトレンドを取り除いている。下段には、当該期間に発生した深部低周波微動の活動度、飯田における気圧変化と雨量を示す。今回の微動活動に伴った顕著な傾斜変動は見られない。

(上図) 昨年(2006年8-9月)の短期的スロースリップ活動の推定断層面(灰色矩形)から計算される傾斜ベクトルと観測ベクトルとの比較。計算値と観測値とは大きく異なっていることから、今回の微動活動に伴った短期的スロースリップによる傾斜変動がノイズレベル以下であるか、前回の活動とは断層パラメータが異なる活動であると考えられる。なお、橙色の点は、2007年6月に発生した微動の震央位置であり、灰色の点は図1の2006年8-9月の微動活動を示している。

謝辞：気象庁のWEB上に公開されている気象データを使用させていただきました。